

## NEWS RELEASE

2021年9月24日

株式会社chaintope

# 医療機器・材料の共同配送の実現における トレーサビリティの実証実験を実施

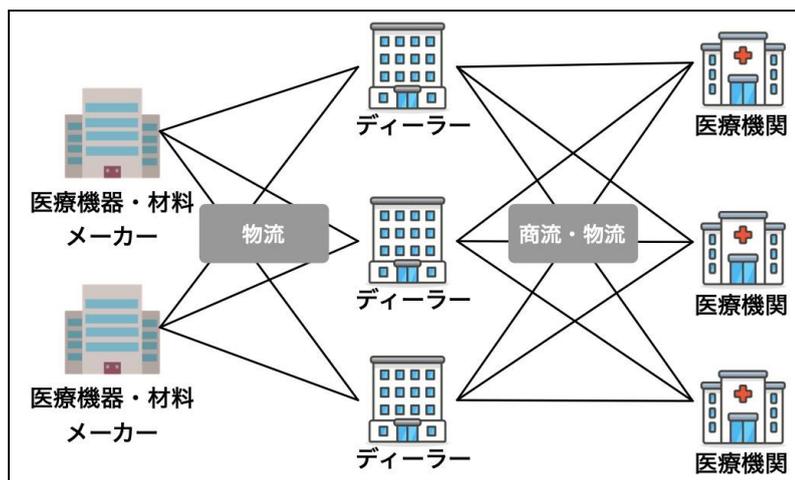
医療機器・材料の物流のトレーサビリティをブロックチェーン技術を用いた  
トレーサビリティサービスで検証

株式会社 **chaintope** (本社:福岡県飯塚市、代表:正田英樹、以下「**chaintope**」)は、医療機器・材料の総合商社である株式会社ムトウのムトウ東京SPDセンターにおいて、医療機器・材料の共同配送による業務の効率化を目的とするトレーサビリティを実現するための実証実験を実施したことをお知らせします。

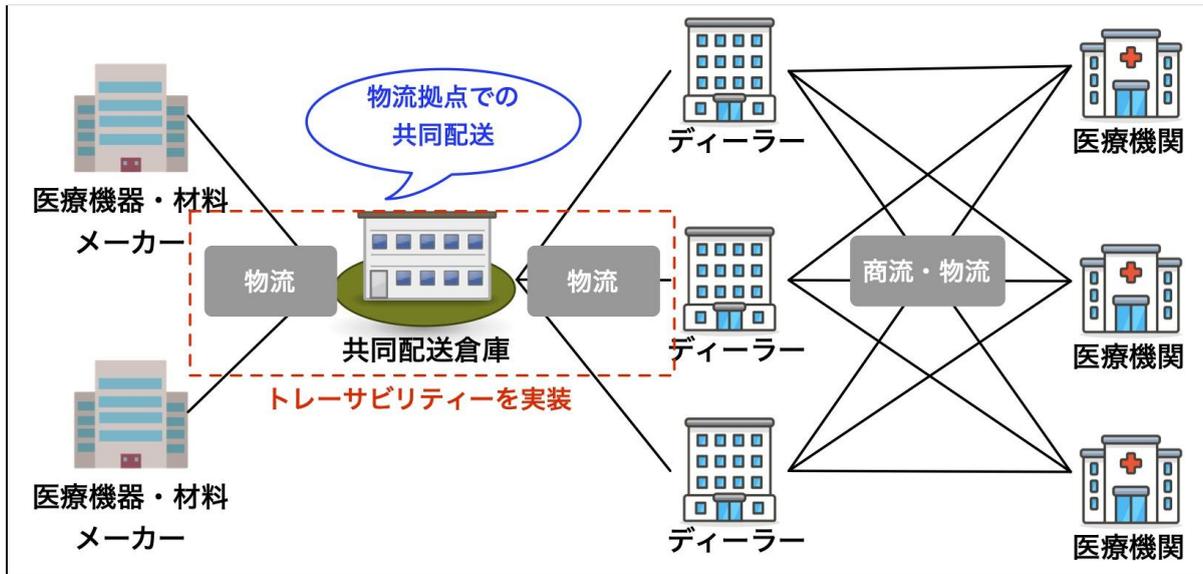
## 1. 背景・経緯

医療機器・材料業界の商流や物流は、一般的に「メーカー」「ディーラー」「病院」で構成されています。各プレイヤー間の物流は、それぞれが独自に行われており、プレイヤーの数だけ構築されているような状況となっています。そこで、物流拠点での共同配送の検討を進めて、ITシステムの積極的な導入による業務効率化を推進することが検討されました。これによって、医療機器・材料の安定供給に寄与することが可能となります。また、流通情報や使用状況を逐次記録することができるトレーサビリティを実現することによって、作業の見える化と業務の効率化を実現することができます。そのような背景から、まずは医療機器・材料の共同配送を検討する過程において、物流トレーサビリティの実証実験を実施しました。

### 【現在の物流イメージ】



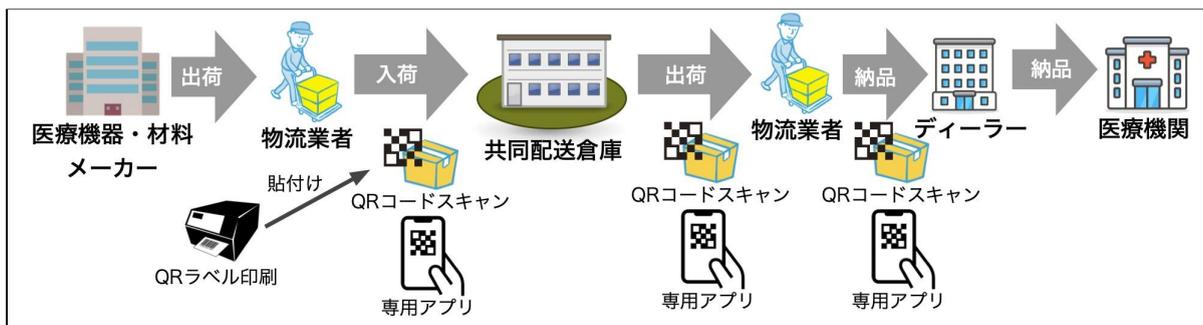
【共同配送による物流イメージ】



2. 実証実験の内容

ムトウ東京SPDセンターの物流施設を共同配送倉庫と想定し、メーカーから入荷した商品のピックアップからディーラーへの納品までのトレーサビリティを専用アプリで検証しました。検証の結果、各工程のトレーサビリティを正確に記録できることが確認できました。また、各工程におけるリードタイムを計測することで、物流工程における業務改善に応用できることが確認できました。今後は、トレーサビリティが業務の一部として稼働できるように、物流システムとの連携を検討します。

【トレーサビリティの実証実験イメージ】



### 3. トレーサビリティサービスについて

本実証実験で使用したトレーサビリティサービスは、ブロックチェーン技術基盤としてchaintopeの独自パブリックブロックチェーン「Tapyrus(タピルス)」を用いたトレーサビリティサービスとして開発しました。利用者はスマートフォンから対象となる商品へ貼付された2次元バーコードをスキャンすることでトレーサビリティを実現できることが特徴です。

#### 【スマートフォンのアプリイメージ】



#### 【お問合せ先】

株式会社chaintope

メールアドレス: info@chaintope.com

#### 株式会社ムトウについて

医療機器・材料をご提供するだけでなく、医療の基幹部分である病理・薬学・治療技術開発などの基礎研究分野のバックアップや、高齢化の進行による多様化する保健医療・福祉サービスへの支援、患者別原価管理や病院情報システム連携院内物流の効率化を図るシステムの導入など幅広い分野で医療をサポートしております。

社名: 株式会社ムトウ

本社拠点地: 札幌 東京

ウェブサイト: <https://www.wism-mutoh.jp/>



### 株式会社chaintopeについて

「ブロックチェーンインテグレーターとして社会にブロックチェーンを実装する」ことをミッションとして掲げるブロックチェーンテクノロジーカンパニー。ブロックチェーンのコアテクノロジー開発(研究開発メイン)に強みを持ち、実証実験やシステム開発などの案件受注の他、独自のプロトコルレイヤーソリューションの開発を進める。

社名: 株式会社chaintope

代表: 正田 英樹

所在地: 福岡県飯塚市

ウェブサイト: <https://www.chaintope.com/>